

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第47週 (11月18～24日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	217	14350
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢		70
腸管出血性大腸菌感染症	52	3521
腸チフス		36
パラチフス		6
[4類]		
E型肝炎	10	475
A型肝炎	2	128
エキノкокクス症	1	14
エムボックス ¹⁾		19
オウム病		4
回帰熱		11
Q熱		6
コクシジオイデス症		4
ジカウイルス感染症		4
重症熱性血小板減少症候群	1	116
ダニ媒介脳炎		2
チクングニア熱	1	9
つつが虫病	17	189
デング熱	6	217
日本紅斑熱	6	503
日本脳炎		8
ブルセラ症		4
ポツリヌス症		7
マラリア		45
ライム病		25
類鼻疽		2
レジオネラ症	45	2208
レプトスピラ症		49
[5類]		
アメーバ赤痢	8	469
ウイルス性肝炎 ²⁾	4	203
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	33	2020
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		39
急性脳炎 ⁵⁾	10	496
クリプトスポリジウム症		25
クロイツフェルト・ヤコブ病	3	154
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	24	1751
後天性免疫不全症候群	13	898
ジアルジア症		37
侵襲性インフルエンザ菌感染症	5	558
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	56
侵襲性肺炎球菌感染症	45	2146
水痘 (入院例に限る)	5	429
梅毒	189	13202
播種性クリプトкокクス症	3	173
破傷風		75
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	114
百日咳	127	3167
風しん		5
麻疹		40
薬剤耐性アシネトバクター感染症		5

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	11678	2.36
新型コロナウイルス感染症	8948	1.81
RSウイルス感染症	734	0.23
咽頭結膜熱	883	0.28
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6401	2.04
感染性胃腸炎	9668	3.08
水痘	724	0.23
手足口病	10567	3.37
伝染性紅斑	1612	0.51
突発性発しん	756	0.24
ヘルパンギーナ	239	0.08
流行性耳下腺炎	83	0.03
急性出血性結膜炎	15	0.02
流行性角結膜炎	367	0.53
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	11	0.02
無菌性髄膜炎	13	0.03
マイコプラズマ肺炎	1233	2.57
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ⁸⁾	6	0.01
インフルエンザ (入院患者)	225	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	1138	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↑	福岡、山形、沖縄
新型コロナウイルス感染症	↓	秋田、岩手、北海道
RSウイルス感染症	↓	北海道、大阪、群馬
咽頭結膜熱	↑	福井、岩手、大分
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	北海道、宮崎、福岡
感染性胃腸炎	↓	大分、宮崎、山形
手足口病	↓	鹿児島、沖縄、岩手
伝染性紅斑	↓	埼玉、東京、神奈川
ヘルパンギーナ	↓	佐賀、鹿児島、熊本
流行性耳下腺炎	↓	岡山、富山、静岡
マイコプラズマ肺炎	↓	福井、愛知、奈良

◆5類感染症 (定点当たり報告数)

インフルエンザの定点当たり報告数は第43週以降増加が続いている。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は225例で前週と比較して増加した。手足口病、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少しているが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。